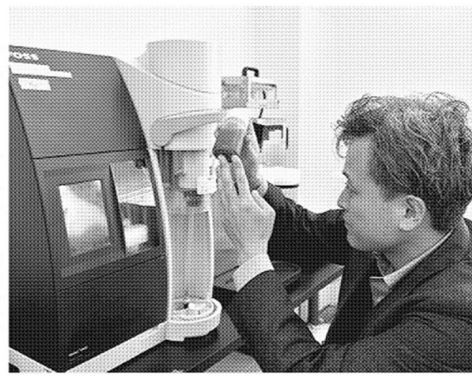


茶殻捨てずに全成分利用

静大発エスブリッジズ



エスブリッジズは独自の酵素で植物から未利用の成分を抽出する

静岡大学のスタートアップ、S-Bridges（エスブリッジズ、浜松市）は酵素を使い茶葉や茶殻から未利用タンパク質などを抽出し、全量活用するシステムを提供する。人工知能（AI）で分析し抽出・活用に必要なデータを提供するプラットフォームをつくる。様々な企業との協業で製品やサービスを展開し、新たな市場創出を後押しする。

同社は有用でも経済活動に活用されていない状態を「無消費」と定義する。植物などの成分を余

タンパク質や繊維抽出 酵素使うシステム提供



すことなく生かす技術で未利用資源の価値を引き出す。潜在需要を掘り起こし、素材の有効活用によりコスト削減や環境負荷の低減もめざす。

静岡スタートアップ
キックオフ

茶葉などに含まれるタンパク質を取り出せる

お茶は細胞壁が厚く、タンパク質が吸収されずに茶殻に残る。この技術によりタンパク質をすべて回収でき、繊維なども分離・抽出できるという。もう一つは独自開発のAIによる分析を活用し

4月にはアイシンやアサヒ飲料、帝人フロンティアなど異業種の大手6社とプロジェクトチームを組織しお茶の成分を活

用した新製品開発に着手した。2025年中には成分抽出用の酵素や装置を連携企業に導入し、企業がそれぞれ新原料を使って商品化する計画だ。

資金は浜松いわた信用金庫（浜松市）の投資ファンドや物流大手の鈴与（静岡市）などから計約3億5000万円の払い込みを受け、25年に追加で約2億5000万円を調達する。24年度に経済産業省の補助金にも採択された。

たデータベースだ。素材から任意の成分を抽出するうえで最適な酵素や装置の条件などのデータを提供し、市場分析やCO₂削減効果の試算にも対応する。連携企業の技術を組み込んだ提案にもつなげる。

長門貴・最高経営責任者（CEO）兼最高執行責任者（COO）は「米アマゾンのようにエスブリッジズがハブとなり、それぞれの企業のアセットを使うプラットフォームを提供する」と話す。

収益モデルは顧客企業の素材活用による売上高に応じたデータ使用料。酵素や装置の販売も含むが、生産は外部に委託する。素材を活用した商品展開は共同出資会社設立などで企業側が担う。

静岡大准教授の佐野吉彦・最高技術責任者（CTO）は「データを蓄積することでどんな素材でもアルゴリズムで抽出・分析できる」と話す。想定する用途はプロテインパウダーなどのサプリメントや肥料など多岐にわたる。温暖化ガスの排出量を売買する「カーボンクレジット」の創出にもつながるとする。

世界人口増に伴いタンパク質の供給が必要に追いつかなくなる「タンパク質危機」解決にもつなげると期待されている。アクセシビリティの試算によると、サーキュラーエコノミー（循環経済）の世界市場は30年に4・5兆円（650兆円）に達する見込みだ。

エスブリッジズは22年設立。取締役には静岡大学の工学や農学分野の教員

らが名を連ねる。大手メーカーなどで新規事業の立ち上げを担い、セルフレイカーという技術を考案した長門CEOが県の紹介を通じ、成分抽出理論を研究していた佐野准教授とタッグを組んだ。

長門CEOは「基礎研究を手掛ける企業は珍しく、大学の研究者らが本業を辞めずにビジネスと研究職の融合を実現する」と語る。

売上高は1900万円を見込むが、28年に営業黒字に転換、29年には売上高62億円と新規株式公開（IPO）を狙うという。

長門CEOは「サーキュラーエコノミーに特化した情報を扱う唯一の企業として成長する」と意気込む。（村上和）